

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3391000019		
法人名	社会福祉法人 愛誠会		
事業所名	グループホーム心		
所在地	岡山県新見市唐松1749-2		
自己評価作成日	令和3年1月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	令和3年2月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員・利用者の方というかきねを取り払い、同じ空間を共有する生活者としての視点を忘れず日々の関わりの中景色・季節を感じながら、真剣に向き合う中でご利用者の心の声・思いを引き出し支援に繋げている。認知症が進むの症状がある方が多い中で、その人の生きてこられた人生に思いをさせ、気持ちをくみとろうとする姿勢を大切に。ご家族の方に小さな変化等細かい情報を共有しながら、ご本人らしさについて話しをする機会を作っている。ご本人を中心に一緒に考え支えあうという関係づくりに努めている。どのような認知症の症状があっても、私達が心を傾けその人を理解しようと努め、自立支援・生きがいを創りだし広がりのあるケアを大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

令和2年2月～令和3年2月現在この1年間においては新型コロナウイルス感染拡大に伴い、様々な生活の規制を受けこのGHの利用者も家族・友人・知人等との面会や日常的な外出支援の自粛等で不自由な生活を余儀なくされている。そんなコロナ禍にあっても、生活の楽しみを持ったり、家族とのつながりが継続出来るように支援を行なうと、創意工夫をしている事例を幾つか見せてもらった。その一つが、安心・安全な面会場所の設置。リビングと廊下の掃出し窓部分の2ヶ所にサンルームの様な形の非接触型面会場所を作り、インターホン越しに会話が出来、対面式の面会が自由に出来るようになっている。利用者が家族の顔を忘れず、認知症の進行も予防出来、心の安定にもつながるという利用者目線の温かい思いやり、取り組みを感じた。また、行事にも力を入れており、「行事というのは生活の中でのエッセンスであり、メリハリをつけて楽しみを感じられることです。心が躍る時間が持てたと感じるようにして下さい」と、記録にあった荘長の言葉に感銘を受けた。素晴らしいホームと思う。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全体で理念を共有してそれをふまえた上で、会議等で掘り下げて目標設定を行い、日々のケアへと繋げている。チームで定めた目標については事務所に掲げ意識し職員間で共有している。	GH目標の「アクティブ活動を充実させ、一緒に楽しみながら認知症の予防に努める」を事務所に掲示し、職員間で常に意識付けをしている。今のコロナ禍にあっても、生活の楽しみを持ったり、利用者のニーズに添ったケアへの対応を心がけるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の各種団体と様々な形で交流が続いており、施設全体が地域住民の憩いの場、研修の場、イベントの場となっている。	コロナ禍の中では、通年の地域の方との交流行事が持てない状況ではあるが、隣接の特養の中で岩山神社の幟を立てて雰囲気を出し、お祭り気分を味わってもらう等、様々な創意工夫をしたり、特養との合同イベントや余暇活動に参加して交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症ケア等取り組みについて、地域住民やご家族に対して実践報告会を、年2回開催し、ケア内容を公開するとともに、認知症に対するケア方法を還元している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所から会議のつど、取り組んでいる内容がわかる事例を報告して、参加メンバーの方に意見・質問等を頂き、そこから職員に内容を伝えさらなる質の向上をめざしている。	市の職員、家族、地域住民等で構成される運営推進委員とも意見交換や情報交換が活発になされている事が詳細な議事録からもよく分かる。認知症の予防についての質問や災害時の避難場所について等、皆で有意義な話し合いをしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に毎回、新見市介護保険課の職員に出席してもらって、各委員の情報共有や情報交換、地域との連携状況等市としての意見を求めている。	運営推進会議に市の担当者の参加もあり、新型コロナウイルスに関する情報提供や市の方針、適切なアドバイス等をいただいている。また、何かあると相談をして連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみで外出される利用者には、一緒に外出し安全面に配慮している。ご家族の方にもご本人の状態の変化とともに考えられるリスクについて理解をして頂き一緒に環境面など考えるようにしている。	身体拘束が必要となるような人はいない。定められた通り定期的な研修をして身体拘束に限らず言葉による抑止についても職員間でよく話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修で高齢者虐待防止法などについて学び、理解できるようにしている。また職員の言動が心理的虐待にあたることのないように、禁止用語を貼りだし自分自身振り返るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用された方が入所されているため、新しい職員が入るつど理解できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は法人の職員と管理者が、重要事項説明などを行っている。事業所でできること、できないことなどの説明や、疑問に思うことなどなんでも言って頂けるように時間をかけて行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の小さな変化を電話等で伝えたり、面会時に時間を作り話しをする機会を作る中で思いを引き出せるようにしている。ご家族の方からの意見を全スタッフで共有していけるようにしている。	コロナ禍の為、敬老会等の直接的な家族交流は出来ないが、敬老式典や日頃の利用者の様子をDVDに納め、クリスマスプレゼントとして各家族に送った。とても喜ばれ家族からお礼の電話があった。また、面会時には積極的に意見や要望を聞くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善委員会、両立支援委員会において協議され提案された意見や改善点について、全体に周知するとともに幹部会議に提案し規則への反映等行っている。	朝の引き継ぎの「連絡簿」を見ても職員間で情報共有が出来ている事がよく分かる。野菜や花等の畑仕事を提案し、上層部からの許可をもらって利用者と一緒に作る等、運営に反映させている例もある。法人の理念である「職員を大切に育てる」が、よく反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、職場内研修を年2回30講座程度企画し、実施している。さらにキャリアパス制度を就業規則において定め、職階と問われる能力、必要な資格及び給与への反映が明確に示されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初級、中級、上級別に研修を行い、それぞれのレベルに応じた指導・教育を行っている。日々のケアの中で、その都度利用者の方の行動・様子より考える機会を設け、認知症の方の理解に繋げていけるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外研修に積極的に参加させると共に、法人内の他施設研修にも参加しながら、モチベーションとケア内容の向上を推進している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接でご自宅に伺い、ご本人が生活されている環境・生活歴を知ることが大切になっている。そこで今まで生活してこられた様子などゆっくり話しを聞く機会をつくり関係性が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にはいつでも気軽に施設に来て頂けるような関係作りに努めている。こちらからも何度か疑問や不安がないか等伺う機会を作りながら、一緒に支援の方向性を考えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時状況等を確認しながら、利用開始までに何度か話しをする機会を作りながら、必要なサービスにつなげていけるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の方と共に行い、同じ時間を共有することを大切にしながら支援している。職員も昔の習わしや風習・野菜作りなど教えて頂く機会をもっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の方の小さな変化など日頃の様子を細目に連絡をしている。ご家族の思いをひきだしながら、できるところは協力して頂き一緒に支えあう関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまで大切にされてきたことや、馴染みの人等との関係が継続していけるように努めている。今年はコロナの影響がある為、手紙・電話・オンラインを活用して関係性が継続できるようにしている。	コロナウイルスの感染が心配される中でも、家族との絆、つながりを第一に考え、リビングや廊下の掃出し窓を利用してサンルームの様な形の面会場所を作り、感染対策をしっかり取りながら、いつでも気軽に面会出来るように工夫する等、関係継続の支援をしている。	面会用の専用場所を設置し、ホーム内に入らなくても利用者と家族が対面で会話も出来るように工夫してある。関係継続の他にも認知症が進行しない、家族の顔を忘れない等の相乗効果もあり、とても良い取り組みと思う。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性・認知症の進行状態等を把握できるようにしている。状態の変化とともに関係性の再構築等図れるように、職員が間に入りながら関係性の調整を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方についても、これまでの暮らしの継続性が損なわれないように、生活環境・支援の内容や注意が必要な点等について情報を提供し、連携に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りの中で会話や表情から思いをくみとれるように努めている。失語の症状が進行した方には、生活歴やこちらで生活してこられた情報等をふまえ、家族の方と一緒に思いを推測できるように努めている。	神様を拝む事を毎日の習慣にしてきた人の為に、リビングルームの一角に神棚を作り、信仰心を大切に継続させている例もあり、心の安定にもつながっている。また、自分だけの花作りをしたい人の為に鉢植えを用意する等、一人ひとりの思いを大切に、出来る範囲で叶えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や、馴染みの暮らし方などについて、ご家族の方にその大切さ・必要性を伝え理解して頂いたうえで、しっかりと情報を頂きご本人の全体像を知ることができている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、その日によって体調等も違うので、ご本人の言動や表情などの様子から職員間で情報を共有しながら感じ取れるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日ごろの会話の中から、本人・家族の思いをお聞きし、それぞれの意見を反映したうえでカンファレンスを行い介護計画書を作っている。	アセスメントやカンファレンス記録を見てもADLはもろんの事、精神的なメンタルケアを中心として話し合われている事がよく分かる。本人、家族の意向を基に、利用者一人ひとりの心情に寄り添いながら、職員間で話し合ってケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな変化・ご本人の様子等について、個別的に記録を残すことで、職員間での情報の共有に努めている。その情報からケアの見直しを行ったり、介護計画書に反映をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援に対して、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用し、利用者の方が柔軟に活用でき、これまでとかわらずに地域生活者として生活が継続できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からかかりつけ医へ毎月通院介助を行い、ご本人にかわり状態等をお伝えしている。専門医の受診や、急変時の受診等家族に同行してもらい体調管理に努めている。	それぞれのかかりつけ医への定期受診には個々の状態をよく把握している職員が付き添いをして医療と介護との連携を図っている。他科受診等は原則家族にお願いするようにしている。また、将来的にはオンライン診療も視野に入れていると聞いた。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調や小さな変化を見逃さないように観察するように努めている。又、介護士で判断できないような場合、唐松荘の看護師に相談し助言を受け適切な医療に繋げるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、認知症の方であるため気を付けてほしい事等細かいことを書面等で伝え連携を図っている。入院中は今は細目に電話連絡を行い、関係職員から回復状況等情報の交換を行いながら、退院支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだ該当者がいないが、ターミナルケアに関する指針に限り、可能な限り支援する方針である。	同敷地内に特養も併設されているので、重度化が進んだ場合は移行するケースや医療が必要となり入院するケースも多い。現在看取りの該当者はいないが、本人・家族の希望があれば医療機関と連携しながらホームで出来る限りの支援をしようと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修や消防署の協力を得て救急手当や蘇生法の研修を実施し、事故発生時に対応できるようにしている。特養の方の事例をお聞きし情報を共有できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月特養と合同による夜間を想定した避難訓練を行っている。夜間一人で対応を行う場合を想定し行い、振り返り反省し助言を頂いたことを活かせるように努めている。	隣接する特養は災害時の地域の拠点避難場所になっており、近年の水害時においてもその役割をフルに発揮した記録を見た。GHも毎年合同の避難訓練を実施して法人施設と連携を図り、緊急時の協力体制を構築しており、運営推進会議でも災害対策についてよく話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の自尊心を尊重して、さりげない言葉かけを行い、本人のプライドを傷つけないように配慮した対応を行っている。	羞恥心やプライドに配慮した声のかけ方や関わり方に気をつけている。例をあげれば、トイレ誘導の時「部屋に行ってみませんか?」「散歩してみませんか?」等と声かけしプライドを傷つけない対応をしている。呼称も苗字で言うようにして尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ささいな事でも、一人ひとりに合わせた選択肢を用意して、選びやすいような働きかけをしている。また意思表示が困難な方には、表情や反応を見ながら自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日の体調・気持ちの状況にあわせて、本人のペースで生活して頂けるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれな方も多い為、ご本人の意向を大切に支援している。外出や行事など、上着などいくつか用意して選んで頂き楽しみに繋げている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	材料の買い出しについても利用者の方といき、地域の方との交流を図れるようにしていたが、コロナの影響でできていない。それぞれできることをみつけて、教えて頂きながら楽しみながら作るようにしている。	特養の栄養士が献立を立て、食材を配達してもらっていたが、以前のようにGHで献立を考え、利用者に食べたい物を聞き、一緒に買い物に行って作る方向に戻した。今日も三角巾にエプロン姿で職員と大根おろしを作っている人を見かけた。五感を刺激し、役割を持ち、食べる楽しみがある本来のGHの食支援の姿を見た。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の方がたてた献立を参考に、ご利用者の方からも希望をききながら旬のものを取り入れた献立をたてるようにしている。摂取量が少ない方はご本人が好むものを用意したり柔軟におこなっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の力に応じた口腔ケア(うがい、義歯洗浄、歯磨き)を行っている。毎日ポリドントによる義歯洗浄、うがいをを行い口腔内を清潔に保ち嚥下障害の予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれ周りをみられたり、ご利用者の方の様子から察知し、さりげなくトイレ誘導している。尿意のない方にも日々の観察により排泄パターンを把握して定期的にトイレ誘導をしている。	排泄のパターンはその日により違う人もいますので、表情や動作、発する言葉等から早目にキャッチして声かけやトイレ誘導をして自立支援につなげている。また、トイレの手すりの位置や種類等、排泄のケア方法も職員間で検討し、より良い排泄ケアに向けて話し合っている。	各居室にトイレが設置されているので、特に退院後のリハビリの為に特養のPTIにアドバイスをもらい本人の状態に合わせた排泄のケア方法を検討する事も出来る。全体的に個別ケアがよく出来ているので継続して下さい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの消化機能の状態の把握、体操、ゲーム、散歩などの運動、飲食物の工夫を行い便秘予防、解消に努めている。必要により栄養士の方にも相談をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの能力に合わせ、入浴方法を決めている。ゆず湯など季節感を大切にし、入浴を楽しんでいただける工夫をしている。重度化している現状であるため、安心して安全にケアに努めている。	基本週2回以上、夏は週3回入浴日としている。浴槽に入れる人、シャワー浴・足浴対応の人等マンツーマンでコミュニケーションを取りながら楽しく入浴してもらっている。入浴を嫌がる場合、何故なのかその原因を探り職員間で話し合い、声かけを工夫したりリラックス出来る環境を整えるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を大切にし、ゆっくり休息したり気持ちよく眠れるよう支援している。その人にあわせ心地よい音楽を流したりあんどんのような光を使用したり等音・光にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬について把握できるようにいつでもみれるようにファイルに情報をいれている。薬の変更があった時には必ず連絡簿に記入し、副作用について伝え変化を気をつけていけるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの方の力に応じた役割を持っていただき、生活の中でご利用者の力が発揮できるような場面作りに努めている。しっかり感謝の気持ちを伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の気分や天候や気候に応じて散歩や買い物等出かけている。コロナの影響があるので、車を降りずに自宅周辺のドライブ等へでかけることもある。	コロナ禍の為、外出の自粛しており、これまでのような外出支援は出来ないが、特養のイベントに参加したり、敷地内の散歩やドライブ等も楽しんでおり良い気分転換となっている。秋には自宅近くをドライブし紅葉を楽しんだという記録もあった。自然に囲まれた環境なので四季折々の景観を鑑賞しながら日光浴や外気浴をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で支払い管理できる方は、買い物の支払いを見守り支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナの影響があるのでご家族の方とのつながりを大事に、日頃の生活の中で日常的に手紙を出したり電話で話しをする機会をつくり支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、季節感のある小物や飾りつけなど利用者の方と一緒に作り、落ち着いた・安心感の持てる雰囲気作りをしている。	アクティブ活動を充実させ認知症予防に努めていく事を目標としているので、絵手紙、生け花教室、スポーツ大会、カラオケ大会等のアクティビティがいろいろ用意され活動的に過ごしている。リビングには掘りごたつ、ソファ、テーブル等が適度に配置され、明るく清潔な空間の中で、それぞれ自分の好きな場所で寛いでいた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その日の気分に合わせていろんな場所で過ごせるように、椅子を配置したりゆったりソファで過ごせる空間を作ったりしている。好きな所へ移動して過ごせれるような空間作りを努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた道具や家具を持ち込んで頂いている。またご本人の生活に合わせ畳の居室にしたり、家と同じような家具の配置にしたり等工夫をしてできる限り環境をかえず心地よい空間作りを努めている。	各居室の間取りや装飾が個性的であり、孫夫婦の結婚写真や椅子、仏壇、テレビ等を思い思いに持ち込み、トイレ・洗面所も設置されているのでゆったりと落ち着いて過ごせる。フローリングか畳にするかはそれまでの生活習慣に合わせるとの事。一人ひとりが居心地良く暮らせる配慮がしてある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に過ごしていただくため、足元の障害になるようなものは置かないよう環境整備を行っている。		